

# 2007年12月号 Mini-WAN

～三河港湾事務所だより～



## ○半田運河で屋形船を運航

11月24日、25日、半田運河において屋形船の舟運を行いました。これは、半田運河を核とした『「温故知多新」半田運河再活性化プロジェクト』の一環として、船上から運河の魅力を再発見していただく企画です。



屋形船でのクルージング

両日とも天気到大変恵まれ、船上からは黒塗りの醸造蔵など歴史が残る風景が青空と共に水面に映し出され、参加者の皆さんは風情ただよう半田運河の魅力に関心を寄せていました。参加した皆さんに協力していただいたアンケート調査の結果を、半田運河や衣浦港を中心とした活気のあるまちづくりに生かしていきます。



黒塗りの蔵が並ぶ半田運河

## ○ミスみなと合同安全パトロール

11月28日、ミスみなと（「港の女王」「船の女王」「海の女王」）の3女王による合同安全パトロールを、愛知県三河港務所、愛知県三河港工事事務所、当事務所の3所共催で行いました。

3人の女王が一日所長として、文書決裁や所内巡回の後、工事現場の安全パトロールを行い、工事の概要説明を受けた後、現場の作業員の方々に「建設作業における労働災害は一瞬のスキに起こるもの、日頃の監察・点検が重要」と訓示を行いました。無事に一日所長の任を終えた柳田さんは「今までのイベントにはミスみなと三人一緒で参加していました。しかし、今回のように三人が別々に行動したのは初めてのことで、最初は不安でしたが、三河港湾事務所の皆さんにいろいろお世話になり、本当に楽しかったです。」と語っていました。



当事務所一日所長の「海の女王」  
柳田有香さん



現場視察中のミスみなと  
左側「港の女王」村田麻由さん、  
右側「船の女王」白倉まりなさん

## ○管内事業報告会

11月29日、30日、名古屋港ポートビルにて、第41回中部地方整備局港湾空港関係事業報告会が行われました。当報告会は、2日間に渡り計20題の管内の事業内容や課題を報告し、プレゼンテーションの技術や論文の構成等を競うものです。三河港湾事務所からは「誕生！みなとオアシスがまごおり」「中山水道航路の管理・保全について」「旧検潮所の撤去に伴う防食工法の評価について」の計3題を発表しました。残念ながら、当事務所からは優秀論文賞の獲得者は出ませんでした。人前での発表など普段出来ない貴重な経験が出来ました。優秀論文賞を獲得した論文は下記のとおりです。発表・論文共にわかりやすく、今後の業務の参考になりました。



発表会の様子

### ☆優秀論文賞☆

- ・ケーソン式混成堤の滑動安定性に関する実験的研究  
～性能規定化に対応した新たな取り組み～  
(名古屋港湾空港技術調査事務所 河合さん)
- ・補助事業における事務費の適正な執行について  
(港湾管理課 池口さん)
- ・海上漂流コンテナの回収  
(港湾空港防災・危機管理課 安藤さん)

おめでとう  
ございます！



優秀論文章授賞式の様子

★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧ください。 <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp> ★

Mini-WANとは

三河港湾事務所従来から発行している季節広報誌「m-wan(エムワン)」では扱うことが難しかった新鮮な話題を中心に情報提供を行い、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

### ■巻頭コラム

#### ■最近のトピックス

- シンポジウム「バイオ燃料の可能性」
- みかわベイフェスティバル
- 三谷まつり
- 熊本県議会が三河港視察
- 秋の530運動を実施
- JICA研修生が三河港視察
- 豊川流域圏こども会議
- 豊橋みなとシティマラソン
- 半田運河で屋形船を運航
- ミスみなと合同安全パトロール
- 管内事業報告会



☆ CONTENTS ☆

### ☆巻頭コラム☆

#### 三河港湾事務所長 塩田 昌弘

12月1日、2日の週末、職場旅行で京都へ行って参りました。見学したのは、金閣寺、二条城、清水寺、銀閣寺、東福寺と有名人どころばかり。2日とも天候に恵まれたこと、さらに、例年は見頃が終わっている紅葉がまだ十分に楽しめたこともあり、日本の秋を満喫することができました。特に紅葉が古都の魅力を一層引き立てており、四季が楽しめる日本の素晴らしさをつくづく感じました。



とはいえ、紅葉の時期がずれたのは、夏の猛暑が長引いたことが一因となっていたようです。最近、新聞、雑誌などで“地球温暖化”という活字を見ない日は少なくなりました。



当事務所でも、CO<sub>2</sub>削減のため、夏場のクールビズと同様に、この時期はウォームビズを導入し、室温は19℃に設定しております。ご来訪の方にはご迷惑おかけしますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。

また、本年は当事務所にご支援、ご協力いただきまことにありがとうございました。来年も皆様にとりまして充実した1年となりますようお祈り申し上げます。

### 「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと  
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局  
三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1  
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地  
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>  
E-mail [info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp](mailto:info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp)

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。



☆最近のトピックス☆

○シンポジウム「バイオ燃料の可能性」

10月26日、豊橋市内においてシンポジウム「バイオ燃料の可能性～環境・港・ブラジルの新たな連携～」が開催されました。

シンポジウムは豊橋ブラジル協会及び国際自動車コンプレックス研究会が主催し、ブラジル国営石油会社ペトロbras寺部国行統括マネージャーが、



寺部国行ペトロbras  
総括マネージャー

エタノール燃料普及先進国であるブラジルでの現状、将来展望について御講演されました。続くパネルディスカッションでは、寺部氏のほか稲垣隆司愛知県副知事、豊橋技術科学大学後藤尚弘准教授、いすゞ自動車(株)稲生武元社長、日本ジュース・ターミナル(株)石川百代社長、東三河地域研究センター戸田敏行常務理事が、三河地域でのバイオ燃料に関する現在の取り組み、ブラジルとの交流が盛んであるとともに自動車産業に精通するこの地域の特色を生かした今後の可能性、バイオ燃料の受入体制などについて意見交換が行われました。



パネルディスカッションの様子

○みかわベイフェスティバル

10月27日、28日、一色さかな広場で、みかわベイフェスティバルが開催されました。今年で第7回目を迎えるこのフェスティバルは会場規模もとても大きく、様々なコーナー・イベントが用意されていました。特に驚いたのは、先着で一色町の三大特産品である「うなぎ蒲焼き」「えびせんべい」「カーネーション」を配布していたことです。2日間でそれぞれ千数百名に配る大盤振る舞いで、どの来場者みな満足げでした。また、干潟の生きものパネル展や郷土太鼓大競演もあり、食、文化、産業、環境と一色町のすべてを詰め込んだ活気あふれるイベントでした。



多くの来場者



都築 謙 一色町長

○三谷まつり

300年以上の歴史ある三谷祭が10月28日、蒲郡市三谷町で執り行われました。

八剣神社を出発した山車(やま)4台が若宮神社に向かう途中、各区の男衆が海の中400mを山車を引いて渡る「海中渡御(かいちゅうとぎょ)」が最大の見所で、その勇壮な光景から天下の奇祭と呼ばれています。山車が無事引き上げられるたび、海岸に集まった観衆5万人から拍手が沸き上がりました。

海中渡御は護岸整備のため昭和36年以降途絶えていましたが、地元の熱意で平成8年に復活しました。

先人から受け継がれてきた三谷祭は毎年10月第4日曜日に開催されますので、体感してみたいはいかがでしょうか。



海の中を進む山車



引き上げられる山車

○熊本県議会が三河港視察

10月30日、熊本県議会環境対策特別委員12名(委員長:中原隆博熊本県会議員)が、有明海・八代海等の再生に向けた取り組みの一環として、干潟造成では我が国の先進的な事例である三河湾シーブルー事業を視察されました。当日は、当事務所監督測量船しおさいに乗り込み、船上から約12haの干潟



現地視察へ出発

が造成された西浦地区を見学しました。その後、ポートインフォメーションセンター「カモメリア」(豊橋市)にて、当事務所より三河湾シーブルー事業の概要説明後、お互いの事業進捗状況・課題について様々な意見を交換しました。遠く離れた熊本県で三河湾シーブルー事業が知られていることに驚きつつ、港湾事業と連携した環境改善の必要性を再認識しました。



当事務所 塩田所長

○秋の530運動を実施

10月31日、ぽかぽか陽気の清掃日和のもと、神野ふ頭地内の事務所周辺や付近の公園の清掃活動を行いました。紙くずやペットボトルなどさまざまなごみがあり、量も多く、掃除・分別が大変でした。この取り組みは、豊橋市530運動環境協議会の「秋の530運動」及び愛知県三河港務所の「10月の美化月間」に賛同して行っているものです。



回収したゴミ

豊橋市は530運動の発祥の地であり、市民が一体となって積極的な清掃活動を行っています。皆様方も「自分のゴミは自分で持ち帰りましょう」を合言葉に美しいまちづくりにご協力をお願いします!



清掃活動の様子

○JICA研修生が三河港視察

開発途上国への技術協力支援を行っているJICA(国際協力機構)が主催する「港湾戦略運営セミナー研修」に、各国の港湾運営管理者12名が研修生として来日され、研修の一環として11月8日に三河港を視察しました。はじめに、三河港が一望できるポートインフォメーションセンター「カモメリア」(豊橋市)の展望室で、三河港の眺望や岸壁に並んだたくさんの自動車の船



研修生の皆さんと記念撮影

積みの様子などを見学されました。その後、同施設の会議室にて、当事務所による「三河港の現状と将来展望」をテーマとした講義が行われ、社会資本整備の目的=国づくり、地域づくりであること、三河港は総貿易額・輸出額が重要港湾の中で全国1位であること、自動車貿易が世界トップクラスであることなどを説明しました。研修生の方からたくさんの質問が寄せられ、国際交流にも役立てたのではないかと感じています。



カモメリアの展望室にて

○豊川流域圏こども会議

11月10日に第6回「とよがわ流域圏こども会議」が、新城市商工会館(新城市)にて開催されました。この「とよがわ流域圏こども会議」は、「とよがわ流域圏一体化への取り組み」の一環として、次世代を担うこどもたちが主役になって行うもので、平成14年から毎年開催され今年で6回目になります。参加した小学生から水生生物調査結果や、小学校で独自に行っている森・川・海に関する環境保全活動等の成果について発表がありました。当事務所からも三河湾の環境について説明を行いました。



発表の様子



説明を真剣に聞く小学生

○豊橋みなとシティマラソン

11月11日、豊橋市神野新田町の豊橋総合スポーツ公園を起点とする臨海コースで豊橋みなとシティマラソンが行われ、約1,200人も人が参加しました。年代別、距離別に様々な部門に分けられる中、当事務所から10キロに1人、5キロに2人、さわやかジョギングに1人が参加しました。私は39



歳以下男子10キロの部で出場。スタートして間もなくの行きの六条潟大橋では三河湾を眺めながら気持ちのいい風を受け、足取り軽く走っていたものの、折り返し地点を通過する頃にはすでに余裕がなくなっていました。それでも沿道の方々、さらに一緒に走っていたランナーの方にも「頑張れ!」と励まされ、後半もなんとか走り切ることができました。ゴール後は全力を出し切った充実感でいっぱい、また機会があればどんどんチャレンジしたいと思いました。



野球部ががんばって!